

2022 年度 地域連携室事業報告書



大谷大学地域連携室

目次

巻頭言 地域連携室長挨拶

大谷大学の地域連携プロジェクトについて

- ・地域連携室について
- ・コミュラボについて

地域連携プロジェクトの紹介(2022 年度)

- 1 中川学区の暮らし再発見プロジェクト
- 2 コミュニティメディアプロジェクト
- 3 聞き取りを通じた共生社会推進 プロジェクト(左京)
- 4 まちの居場所
- 5 駅ナカアートプロジェクト 2022
- 6 南丹市美山町平屋地区と大谷大学の学生との交流活動
- 7 網野町海浜漂着プラスチックの 調査・清掃活動
- 8 山間地域の持続可能な地域づくり支援(柚子)
- 9 WA(わ) のこころ創生プロジェクト
- 10 紫竹自治会応援プロジェクト
- 11 北区こどものまち
- 12 祇園祭ごみゼロ大作戦
- 13 北部福祉フィールドワーク
- 14 子ども・子育て支援プロジェクト

Topics

- 地域連携プロジェクト交流会
- コミュラボカフェ

プレスリリース

巻頭言

地域連携室長 野村明宏

現代のように、物事が目まぐるしく変化し、複雑化し続ける社会では、イマ・ココでは当たり前とされることが、ヨソでは違い、アシタには変わっているかもしれません。とはいえ、日々の暮らしの中では、状況の変化や複雑さに手をこまねいてばかりではられませんし、なにが正解かはつきりせずとも、臨機応変に工夫を凝らしながら、手探りで前に進んでいかねばならないこともしばしばです。

そうした場面で発揮される生活知や日常実践の力は、大学の中だけではなかなか学ぶことのできない不定形な知であり、多様性の中でこそ育まれる力だといえるでしょう。いまやユニバーシティという名をもった学びの場は、ダイバーシティ(多様性)という、私たちの目の前の現実に対しても深い関心を向ける場ともなっています。現代の高等教育は、学問的な知識を得ることだけが最終的な目的はなく、社会に積極的にかかわり、人生を豊かに歩いていくための実践的な知や協働する力を学生たちに身に付けてもらうことが重要になっています。

本学の地域連携室は、学生と教員が地域に出向き、地元の人たちと共に学ぶことをサポートする知の拠点です。実践的な知や協働する力の習得は、なかなか一朝一夕というわけにはいきませんが、本報告書は、学生たちがフィールドに飛び込み、自らの体験の中でその第一歩を踏み出した記録となっています。

2021 年度の地域連携プロジェクトでは、コロナ禍での制約があったものの、さまざまな工夫を施し、知恵を絞りながら、その多くを実施することができました。プロジェクトの活動自体が、困難な状況を乗り越えるための貴重な実践トレーニングになったともいえますが、地域の皆さまのご理解とご協力なしには、決して成し遂げられなかったものです。

ここに記して感謝を申し上げるとともに、今後とも引き続きご指導ご鞭撻くださいますよう、どうかよろしくごお願い申し上げます。

大谷大学の地域連携活動

子育て支援、コミュニティラジオなどでの情報発信、過疎地域の活性化、環境に配慮した祇園祭の実施への協力など正課授業と関連した地域連携活動を行っています。それらを「地域連携プロジェクト」として位置づけ、学部・学科の垣根を超えて全学的な社会貢献や地域連携の取り組みとして展開しています。



地域と連携した活動



コミュ・ラボでの活動の様子

地域連携室

大谷大学では、地域連携室を設置し、地域に開かれた大学として学びを通じた社会貢献や地域連携活動を支援しています。

2022年度からはじまる第2次中長期プラン「グランドビジョン 130」において、地域連携室は社会連携部門の中心と位置付けられ、学内外の関係諸機関と連携し、これまで以上に全学的な取り組みとなるよう進めていきます。

※地域連携室は、文学部社会学科地域政策学コースの開設準備室を母体として、学外でのフィールドワークやPBL型授業の実施を支援するために2015年6月に設置されました。

コミュ・ラボ

コミュ・ラボは、「コミュニティ」と「コミュニケーション」を軸に社会とのつながりを考え、地域と連携した社会的活動の実践を通して学び成長する学内の拠点です。学生が行動力や課題解決力を養い、地域とつながる活動の場として、活動支援や情報発信を行っています。



2022年度／地域連携プロジェクトの紹介



中川学区の暮らし再発見プロジェクト

実施エリア：京都市北区中川学区
連携団体：中川社会福祉協議会（北区）、
特定非営利活動法人HEROES（上京区）



コミュニティメディアプロジェクト

実施エリア：京都市北区
連携団体：特定非営利活動法人コミュニティラジオ京都（北区）



聞き取りを通じた共生社会推進プロジェクト（左京）

実施エリア：京都市左京区
連携団体：京都市左京東部・西部いきいき市民活動センター（指定管理者 NPO 法人劇研）



まちの居場所

実施エリア：京都市北区
連携団体：社会福祉法人七野会（北区）



南丹市美山町平屋地区と大谷大学の学生との交流活動

実施エリア：南丹市美山町平屋地区
連携団体：南丹市美山町平屋地区地域福祉推進協議会（南丹市）、南丹市社会福祉協議会（南丹市）



駅ナカアートプロジェクト

実施エリア：京都市北区
連携団体：KYOTO駅ナカアートプロジェクト実行委員会（事務局：京都市交通局）



↓ 網野町海浜漂着プラスチックの調査・清掃活動

実施エリア：京丹後市網野町
連携団体：網野町地域おこし協力隊（京丹後市）、京丹後市夢まち創り大学（事務局：京丹後市役所）



↓ 山間地域の持続可能な地域づくり支援（柚子）

実施エリア：京都市右京区水尾地区
連携団体：水尾学区自治会（右京区）、水尾特産品加工組合（右京区）



↓ WA（わ）のこころ創生プロジェクト

実施エリア：京都市北区
連携団体：WA（わ）のこころ創生ネットワーク会議（事務局：北区役所）



↓ 紫竹自治会応援プロジェクト

実施エリア：京都市北区
連携団体：紫竹学区自治連合会（北区）



↓ 北区こどものまち

実施エリア：京都市北区紫竹学区
連携団体：京都市北区役所



↓ 祇園祭ごみゼロ大作戦

実施エリア：京都市中京区、下京区（祇園祭山鉾町）
連携団体：一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦



↓ 北部福祉フィールドワーク

実施エリア：京都府北部
連携団体：京都府



↓ 子ども・子育て支援プロジェクト

実施エリア：京都市
連携団体：京都市樂只保育所（北区）

中川学区の暮らし再発見プロジェクト

プロジェクト概要

本プロジェクトは、2015年度から中川社会福祉協議会との連携事業として進めています。京都市北区中川学区は京都市北部の山間地域に位置し、中川・杉阪・真弓という3地区からなっています。川端康成の『古都』にも登場する地域であり、古くから北山杉で知られる林業で栄えてきた町です。しかし今では、住宅建築様式の変化などにより、中心だった林業は衰退しています。さらに少子高齢化、人口減少が進み、商店や金融などは撤退。最寄りの病院やスーパーまでは車で20分以上かかる状況になっています。公共交通機関であるバスは中川集落のみ停留所があるのですが、杉阪・真弓にはバスは通っていません。自家用車中心の生活によって、人によっては外出が困難な状況となっています。しかし、一見すると「暮らしていくのは大変そう…」ととらえがちですが、決して大変だけでなく、そこにはかけがえのない地域の人たちが紡いできた自然の風土や文化、地域行事などへの思い、住民同士の助け合う風土など、これまで作りあげてきた歴史や暮らしの文化があります。

本学では、このプロジェクトを通して、地域に暮らす人々の思いを大切に、地域の抱えている課題や、地域のこれからのことを共に考えていきたいと思っています。また、地域に残る伝統や文化の積極的な発信、地域の資源を活用した新たな生活文化を創造するきっかけづくりなどにも取り組んでいきたいと思って活動をしています。山間の地域での暮らしのお話は驚くこともたくさんあります。何度も地域を訪ね、お話を伺い、さまざまな活動を共有する中で、暮らしを知り、そしてともに考えるという経験につながっていると感じています。



学生の声

社会学部コミュニティデザイン学科 第2学年 K. T

今年は1年を通して活動することが出来たので、1回生の時よりたくさんの方が経験できました。ビール作りでは茶葉の収穫からビールの販売、報告書作成を経験することができ、実際にビールを売っているところにインタビューに行き、ビールがしっかり売れていることを実感できました。健康ふれあいでは季節のイベントも再開され、学生企画もしたりと毎回充実していました。今年度は多くのところに実際行って活動が出来たので、来年度も実際に行きたくさんの活動ができるといいなと思いました。

2022年度 活動報告

中川での大谷大学の活動も8年目を迎えました。これまで、毎月1回、中川社会福祉協議会が実施している「健康ふれあいクラブ」に参加し、参加者である学区の高齢者、さらには行事を実施する中川社会福祉協議会のメンバーの方、毎回参加される関係機関の方々との交流を通じて中川の暮らしの実態を多角的に把握する活動を行っています。真弓地区での学生が主体で行うサロン活動「and house.」を実施。地元住民有志の方が進めてこられた昔から地元で栽培されてきたお茶の復活プロジェクトへの参加。2019年度からはNPO法人HEROES（現：社会福祉法人菊銚会の醸造部門ヒーローズ）との連携で、このお茶を使ったビール「京都・中川まんまビアー！」の製造にも取り組んできています。また、地域の活動の様子や四季折々の地域の風景などの写真や動画をSNSで発信する活動、生活実態の調査（2015年～2017年）、夏祭りなどの地域行事への参加などを進めてきました。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、いくつかの活動は実施できない状況でしたが、今年度は、「健康ふれあいクラブ」に学生が参加し、学生企画を行うなど本格的に交流を再開することができました。また、「まんまビアー！」に使用する茶葉の収穫を5月と11月の2回実施でき、地域の理解が深める機会となりました。



採択実績

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 令和4年度「学まちコラボ事業」認定事業

担当教員



志藤 修史

社会学部コミュニティデザイン学科

コミュニティメディアプロジェクト

プロジェクト概要

3学年の合同の演習として、大学のある北区北大路エリアの情報発信をテーマとしたプロジェクトを行いました。北大路エリアは、京都市内中心部の京都駅や烏丸、河原町エリアに比べてタウン情報誌などのメディア掲載もあまりありません。また北区には上賀茂神社、金閣寺などもあり周辺地域の情報は旅行雑誌などでも取り上げられていますが、北大路駅周辺は掲載が少ないというのが現状です。こうしたなか、学生が地域に密着した情報を取材し、発信に取り組むのがこのプロジェクトです。メインの対象層は、この地域で暮らす、働く、学ぶ若い世代です。この地域での生活歴が少なく、地域の情報を求めている層にインターネット等を通じて情報を届け、人やお店とのつながりづくりを促します。

2016年からはコミュニティラジオ局にて毎週1回の50分番組を放送。2021年度も継続して取り組んでいます。また、2017年8月に開設した地域情報サイト「キタキタ！」も継続して制作。この他、情報誌「キタキタ！」の第5号も制作しました。

これらの取り組みを通じて、学生が地域に埋もれていた面白いお店やイベント情報を知ること、地域の人の暮らしや仕事の面白さ、大変さなどを知ること、また、パソコンを使っのての情報発信スキルや、対人コミュニケーションのスキル向上を図ることを目指しています。



キタキタ! & 大谷大学ハッピーアワー
Facebook



地域情報サイト「キタキタ！」

2022年度 活動報告

ラジオ番組「大谷大学ハッピーアワー！」を毎週木曜日19時に放送。約50回放送し、地域の商店主やNPOスタッフなど多数の方にゲストとして登場いただきました。コロナウイルスの影響もありましたが、オンラインでの収録、放送を行うなど、感染対策を図りつつ、実施することができました。情報サイト「キタキタ！」では、従来の記事コンテンツの制作に加え、北区が立ち上げた地域サイトFUNAOKAに赤澤ゼミとして学生の取材記事を寄稿するなど、連携が進みました。

また、情報誌「キタキタ！」第5号では、コロナ禍で暮らしが大きく変わり、家の中で過ごす時間、家族で過ごす時間が増えたことを踏まえ、withコロナ時代の暮らしをテーマに誌面を作成した他、北大路商店と連携し、商店街の歴史や新旧のお店を紹介しました。

これらの取り組みを通じ、学生たちと、地域の面白い若者、大人とのつながりが生まれた他、地域の人たちの様々な生き方、働き方に刺激を受けています。また、学生たちは、番組や情報誌づくりなどに必要な企画力、チーム運営に必要なマネジメント能力、会話力(コミュニケーション能力)を身につけることができました。



担当教員



赤澤 清孝

社会学部コミュニティデザイン学科

聞き取りを通じた共生社会推進 プロジェクト（左京）

プロジェクト概要

地域連携パートナーの京都市左京西部・東部いきいき市民活動センター（以下、いきセン）と共に、学生たちが聞き取りを中心とした社会調査（フィールドワーク）を行い、地域住民や出身者、関係者らが直面している問題や、共生社会をめざす上での地域社会の課題について考えます。調査先の地域では、アートやイベントを通じて多様な人々を結びつけるための、積極的な試みがなされています。いきセンは、市民サークル等への貸館事業を営みながら、地域住民や外国にルーツを持つ人々等への聞き取り活動を行い、また演劇・音楽・ダンスといったアート活動を通じて、人々の交流を促す仕掛けを実践しています。盆踊りや夏祭りといったイベントの企画・運営など、地域内外の若者や外国からの移住者も含め、バリエーションに富んだ人々の交流を生み出す機会を提供しています。学生たちは、いきセンの活動に自らも参加することで、地域の方々と交流し地域貢献をなしつつ、地域社会および市民活動の現状と課題についての理解を深めます。また他方で、自分たちで立案した社会調査を実践することで、調査倫理やコミュニケーション能力を含む応用的な調査スキルを身につけます。さらにそれを年度末の報告書へとまとめていく作業の中で、調査データをどう取り扱い、社会的な見地からいかに考察していくかに関する実践的な理解を深めていきます。調査結果をまとめた報告書は、いきセンおよび調査にご協力いただいた地域の方々にお渡しして、地域社会へのフィードバックがなされます。



2022年度 活動報告

本年度は新型コロナウイルスの感染防止に十分注意しながら、前後期ともほぼ例年通りのスケジュールで調査を実施することができました。4月にはいきセンの概要、地域の特徴、公営住宅建て替え事業の進行状況などについて東部いきセンで説明を受け、5月にはワークショップに参加、6-7月には公営住宅の建て替えと地域再開発についてシニア世代の地域住民への聞き取りを行いました。後期は、同じテーマについて20-30歳代の比較的若い世代の地域住民および地域出身者への聞き取りを行うとともに、地域の現状及び課題、一連の公営住宅の建て替えと地域再開発のこれからについて、東西いきセンのセンター長にお話をうかがいました。これらの聞き取り調査の成果を12月以降に『探究フィールドワーク報告書』にまとめました。

担当教員（代表）



渡邊 拓也
社会学部現代社会学科

まちの居場所

プロジェクト概要

まちの居場所づくりプロジェクトでは地域の社会福祉施設の皆さんと協働しながら、地域の居場所づくりを進めています。いま地域福祉実践の場面では、「地域共生社会」がひとつのキーワードとなっています。そして、多様な背景を持つ人々が関係を紡ぐ「居場所」づくりも盛んに取り組まれています。ここで目指されるのは地域に暮らす誰もが、ともにケアしあいながら、気づかいあいながら生きる社会です。

どのような状況にあっても、住みなれた地域で、自分らしく暮らし続けるためには、保健、医療、介護のサービスだけではなく「居場所」や「つながり」の活動が必要となるのではないかと考えます。そしてこれは誰か特別な人に限ったことではなく、子どもも大人も、障害のある人も、ない人も、地域に暮らすすべての人にとって「あったらいいな」と言える場所・活動なのではないでしょうか。

そこで、このプロジェクトでは、住民団体や地域を支える専門機関、大学とが連携をして、学区で暮らす誰もが参加できる「場」と「活動」をつくり、地域やまちづくりに貢献することを目指しています。この活動を通じて、地域で今後さらに大切となってくると考えられる「人と人とのつながり」や、さまざまな立場におかれた人の「居場所」の今日的なあり方について実践を通じて考えていきたいと思っています。



学生の声

社会学部コミュニティデザイン学科 第4学年 T. N

原谷の子どもカフェに初めて参加したのは、大学1年の秋でした。それから、コロナ禍で活動できない時もありましたが、継続して活動に参加したことは良い経験になりました。その中で、居場所を作る立場に立って、子どもたちと関わる中で、今の社会の状況や当事者、居場所を作る人の声が見えてきて、勉強になりました。こうした居場所の活動にはこれからも参加し続けたいと思います。

2022年度 活動報告

2022年度は、昨年度に引き続きコロナ禍のなか活動形態を試行錯誤しながら社会福祉法人七野会の皆さん、京都市北区金閣学区の皆さんと一緒に「原谷の子どもカフェ」事業に取り組みました。これは、金閣学区原谷地区で月1回開催している子ども食堂プロジェクトです。日頃は高齢者への福祉サービスを提供する七野会が子どもカフェの場を提供し、障害者就労支援事業に取り組むカフェレストラン「ソラシド」と地域の金閣福祉会の皆さんが食事を提供し運営しています。長引くコロナの影響を受け人と人との交流が制限される場面もありますが、食事の提供をフードパントリー活動に変更したり、レクリエーションの活動内容を工夫したり、人と人との接触を減らしながらもお互いに交流できる方法を模索しています。この子どもカフェは活動を始めて5年ほどになります。毎回欠かさず参加してくれる子どもたちとはお互いに近況を報告し合うような関係も築くことができました。これからもコロナを経験した私たちの考えるまちの居場所のあり方を考えていきたいと思えます。



担当教員



大原 ゆい

社会学部コミュニティデザイン学科

南丹市美山町平屋地区と 大谷大学の学生との交流活動

プロジェクト概要

本プロジェクトでは、人口減少、高齢化が進む南丹市美山町平屋地区を対象に、生活実態と生活課題および住民による地域福祉活動を学ぶことを目的としています。受け入れていただいているのは平屋地区地域福祉推進協議会、南丹市社会福祉協議会の皆様。主な活動内容としては、学生による高齢者宅等への訪問活動、平屋地区の高齢者との交流を目的とした「ふれあいカフェ」の開催、また、2018年度からは住民の外出・移動に関する調査、さらに2020年度からは買い物支援のために平屋地区地域福祉推進協議会が実施している「お出かけツアー」登録者へのアンケート調査などの調査研究を行っています。こうした活動は、過疎地域における具体的課題から学ぶ機会となり、各自の個人研究レポートや卒業論文につながっています。



学生の声

社会学部コミュニティデザイン学科 第3学年 Y. T

美山では一泊二日で行けて勉強になることばかりでした。今年度後期は1回生も入ってこず、人数も限られていたけど2回生も積極的に参加してくれたので、スムーズに活動が進んだと思います。やって良かったこと、やらなくて後悔したことあるけど忙しく頑張ってたよかったなと思います。

2022年度 活動報告

昨年度は、新型コロナウイルスの感染拡大による影響を受け、規模を縮小して実施しましたが、本年度からは本格的に活動を再開することができました。しかし、高齢者サロンでの交流や福祉施設への聞き取り調査など予断を許さない状況には変わりはありません。地域の皆さまと大学の双方にとって、この状況下でこういった活動ができるかを慎重に議論した結果、2019年から平屋地区で取り組まれている「お出かけツアー」の支援を念頭に、①美山における外出支援や買い物支援の新たな取り組みへのインタビュー調査、②買い物アクセスなどに関する住民アンケートを実施しました。また、②各集落サロンへ参加し、コロナ禍などにより休止した住民福祉活動の再開のタイミングに苦慮したりしている状況を打開すべく、学生の持ち込み企画を行うなど交流を行いました。コロナ禍での「お出かけツアー」の活動の停止、日頃の外出機会の減少や子どもや孫などの訪問機会の減少、移動販売の縮小など、コロナ禍で生じた事態は多くの皆様に様々なダメージを与えており、心身の健康状態が危ぶまれる方もありました。地域福祉活動の再開と運営基盤の整備に努力しておられる現地活動者の皆様や社会福祉協議会の皆様との懇談会（10月22、23日）も実施し、課題の共有と今後に向けた活動の確認なども行うことができ、実り多い活動となりました。また、美山町内の福祉事業所やコロナ前に調査をした道の駅「タナセン」を運営する鶴ヶ岡振興会への聞き取り調査を行い、コロナ前後での変化や地域の活動の様子などの現状把握を行いました。

なお、美山町での活動の様子は別途、報告書としてまとめています。閲覧を希望される方は、地域連携室までお問い合わせください。

2022年度の本事業は、南丹市学校提案型まちづくり活動交付金により実施しました。



採択実績

令和4年度「南丹市学校提案型まちづくり活動交付金」採択事業

担当教員



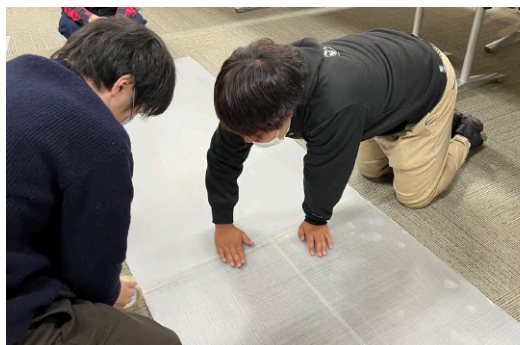
志藤 修史

社会学部コミュニティデザイン学科

駅ナカアートプロジェクト 2022

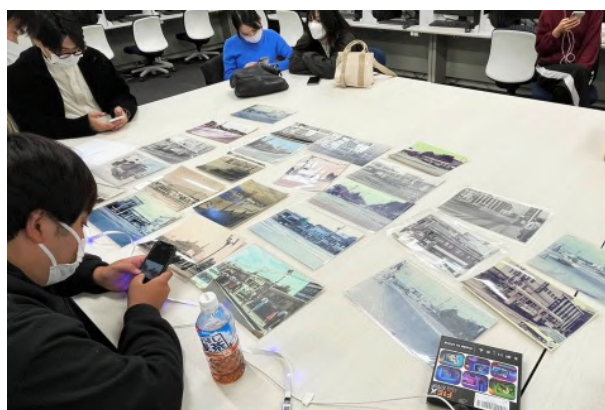
プロジェクト概要

「KYOTO 駅ナカアートプロジェクト」は京都市内の芸術系大学が中心となり、大学生のアート作品で地下鉄駅構内などを装飾し、地下鉄を魅力的なものとして活性化する取り組みです。活力ある京都のまちづくりをめざして2011年度に始まりました。2013年度から大学と地元企業が実行委員会を組織して実施しています。本年度も10の大学が参画しました。大谷大学は、2016年度から地域連携の一環として参加しています。

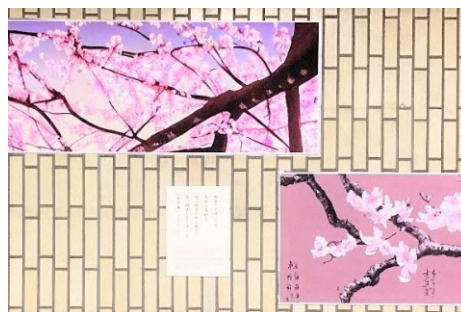


2022年度活動報告

今回は、「京都を明るく元気に」が全体の統一テーマです。展示場所は、北大路駅と鞍馬口駅の2駅です。例年実施している北大路駅の構内では、大学最寄りの出入口から近い通路壁面に展示をしました。「駅と街のコンテキスト」をテーマに、駅と街の歴史を見返せるような企画です。LEDテープを使った駅ナカアートのロゴと昔の北大路駅とその周辺の様子の写真を掲示した、コンテキスト=コミュニケーションの基盤となる文化の共有度合です。街と駅の歴史を再認することで、自分たちが今どの地点にいるのかを見つめ直す展示としました。昔の写真の展示には北大路駅の目の前にある写真店の堀口大学堂さまにご協力いただき、京都市の地下鉄にまつわる昔の写真をお貸しいただきました。地下鉄の車両が、街の歴史を引っ張ってこれからも走り続けるイメージを提示し、駅と街の関係を表しました。



また、本年度は、鞍馬口駅の改札前の通路にも展示を行いました。駅周辺は、神社やお寺だけでない上京らしい文化の蓄積を象徴するエリアです。展示した絵は、和歌の文言からAI技術を用いて出力された「AIアート」です。「題材となった和歌は、「百人一首」から紫式部の句と、その娘である大弐三位が詠った有馬山の句、そして、新元号「令和」のもととなった「万葉集」の歌三十二首の序文です。芸術系大学でない私たちにできることを考え、新しい技術にチャレンジしました。これがアートであるかという問題を提起する意味も込め、現時点のAIで可能なことを提示しました。自然と人の関係をAIアートが描き表す不思議な展示となりました。



2022年度も京都市長から表彰状をいただきました



担当教員



松川 節

社会学部コミュニティデザイン学科

網野町海浜漂着プラスチックの調査・清掃活動



プロジェクト概要

海を漂うプラスチックごみは、世界規模で進行する深刻な環境汚染問題として、国際的に関心が高まるとともに、その除去の方策に向けた基礎研究が進められています。日本では、とくに日本海側の海岸において冬の季節風で掃き寄せられた大量のプラスチックごみが漂着し、大きな問題になっています。京都府京丹後市網野町の海岸においても、大量のプラスチックごみが漂着し、波に洗われることで細粒化し海浜砂にまみれています。網野町には琴引浜という鳴砂の浜が広がっており、綺麗に磨かれた砂がキュッキュと音を立てます。しかしごみの混入で砂が汚染されると、鳴かなくなってしまったといえます。琴引浜は名勝地であり天然記念物に指定されているため、地元の人びとの努力で積極的に清掃が進められてきました。しかし、それ以外の浜では大量のごみが放置されたままです。細粒化したプラスチックは海へ戻って浮遊し、魚が飲み込みます。プラスチックは有機化合物を吸着しやすいため、生態系に影響を与え、魚を食べた人の体内にも蓄積する可能性があります。これらの地域課題・環境問題を解決するにあたって、海岸の清掃活動を行うとともに基礎調査を実施し、課題解決に向けた具体的方策を検討することを目的としています。



2022年度 活動報告

2022年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの罹患対策を実施した上で、日帰りでの活動となりました。京丹後市夢まち創り大学の補助を得ながら、網野町地域おこし協力隊の八隅孝治氏と（株）ジオ研究開発の榎本晋氏の協力もいただき、現地で活動することができました。また11月にはNHK京都放送局の取材に際し、現地活動を1回追加することができました。これら現地での活動経験は、学生たちにとって実践的な学びの機会となりました。

学生の声

社会学部コミュニティデザイン学科 第4学年 K. Y

網野町は私の祖父母が住む故郷で、幼い頃に海岸を訪れた際もごみがあったのを記憶しています。大学生になって実際に活動すると、砂にマイクロプラスチックが多く含まれることが分かりました。卒業研究で海水を汲んだ簡易水槽にごみを浮かべて、マイクロプラスチックを除去する装置を考案し、稼働させました。うまくいかず改良を重ねて試行錯誤を繰り返したことは、卒業研究の醍醐味でもありました。

社会学部コミュニティデザイン学科 第3学年 R. T

私は、海浜砂を掻きあげて砂にまみれているマイクロプラスチックを除去する装置の開発に取り組みました。最初はそのような装置を自分たちで作ることは到底無理だと思っていましたが、それなりに装置ができたこと、また装置の開発と試運転の様子がNHKのニュース番組で取り上げられたことは、良い経験となりました。



採択実績

京丹後市「夢まち創り大学」令和4年度採択事業

担当教員



鈴木 寿志

社会学部コミュニティデザイン学科

山間地域の持続可能な地域づくり支援（柚子）

プロジェクト概要

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、当初活動していた和歌山県古座川町平井地区から、京都市右京区水尾地区に場所を変更して活動しています。水尾地区は、京都の市街地から西へ10km弱、車で30分の場所にありながらも愛宕山の中腹に位置するため限界集落となっています。高齢化による集落の衰退と基幹産業である柚子栽培の維持が課題です。日本の柚子栽培発祥の地として有名な地域ですが、担い手不足に悩まされています。地域では住民有志が加工所を新設し、地域の将来をかけて柚子を活かした活性化を行っています。今後も学生が地域活動に参加し、連携を深めていきたいです。



2022年度 活動報告

水尾地域の生業や高齢化に起因する複合的な地域課題の理解や解決に向けて、地域と連携して活動を行いました。活動2年目として、地域が求める活動と、学生視点による地域課題の解決の双方に取り組みました。地域が活性化の取り組みとして実施するフジバカマの保全育成活動や花が見頃を迎える10月に実施する「フジバカマ鑑賞会」のイベント支援を行いました。また、今年度は新たな取り組みとして、地域が主体となって実施した「京都・里山 親子でめぐる伝統文化体験事業～京の食文化を支える柚子しぼり・加工体験～」の運営支援を行うとともに、学生は当日参加した親子と水尾住民とをつなぐ役割を担いました。また、特産品である柚子を使った交流事業「柚子しぼりボランティア」では他の一般ボランティアと協力し、担い手が不足する水尾地域の活性化の取り組みを支援しています。

また、学生発案の取り組みとして、水尾の担い手づくりを意識した魅力発信を行っています。商品開発班は試食品作りに挑戦し、参加者にアンケートを行いました。柚子を使った新たな食べ方を提案するだけでなく、地域資源である柚子をテーマに交流を行い、柚子の魅力を再発見する機会となりました。SNS班は、記事の投稿だけでなく、水尾で柚子栽培を手伝っている若者や水尾で活動する他大学の団体とSNSで繋がり、意見交換を行いました。次年度は、これらの出会いを活かし、ヨソモノの力を結集した取り組みを検討するなど、ポストコロナとして地域の活力を下支えする活動を展開していきたいです。



学生の声

社会学部コミュニティデザイン学科 第3学年 S. K

水尾を知るといっただけで終わった2年生次とは違い、何度も水尾を訪れる事ができました。例年開催されているイベントだけでなく、新しいイベントのお手伝いや、区役所でのプレゼンというとても貴重な経験を積むことができました。大学入学前に思い描いていた活動ができた1年間だったと思います。

社会学部コミュニティデザイン学科 第2学年 A. M

水尾の特産物である柚子を使ったお菓子を作り、試食をしてもらうという経験をしました。食べてもらうまでは不安でしたが、良い感想が貰えたりアドバイスをいただけたので、今後の参考になりました。イベントの手伝いをするだけでなく、自分たちができることは何かを考え実践できたことにやりがいを感じました。それと同時に特産物を使った試食会が地域の方との交流の場となることが実感できて嬉しかったです。

採択実績

令和4年度「右京区まちづくり支援制度（学生枠）」採択事業

担当教員



鈴木 寿志

社会学部コミュニティデザイン学科

WA（わ）のこころ創生プロジェクト

プロジェクト概要

北区の4大学（大谷大学、京都産業大学、佛教大学、立命館大学）と、伝統文化の担い手や寺社、北区役所が連携して、「WA（わ）のこころ創生ネットワーク会議」を組織し、自然への深い感謝の念や繊細なおもてなしの精神など日本人が大切にし、受け継いできた日本のこころを次世代に継承する取り組みを進めています。

本学は、構成団体として、文化事業を通じて、北区民のくらしに文化が息づく「こころの創生」の実現に貢献しています。

これまでは、文化体験や文化ツアーを行っていた本事業でしたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オンラインを活用した取り組みの実施を事務局を中心に模索していました。松川ゼミでは、地域連携の取り組みとして、ネットワーク会議に今回の取り組みの提案を行い、実施に至りました。事業名の「WA」は、「和」「輪」「わ」など、解釈の仕方で創造性が広がるよう、あえてアルファベット表記になっています。

大谷大学社会学部 松川節教授のゼミとコラボ！
北区「WAのこころ」動画が完成！

北区「WAのこころ」創生事業に共感いただいた、「文化遺産のデジタル化」をテーマとする大谷大学社会学部松川ゼミが、源光庵とわら天神宮を取材。
地域とともに積み重ねられてきた想いを大学生の瑞々しい感性で映像化した作品が完成しました。

 源光庵の紹介と地域とのつながりなどについてお話しいただきました。

 わら天神宮と呼ばれる由来や稲藁と安産のつながりなどをお話しいただきました。

「誰が見ても見やすい」を意識して制作しました。思わず訪れたいくなるような動画に仕上がりましたので、ぜひご覧ください。

 動画はYouTube「きょうと動画情報館」で公開中！
←こちらからご覧ください

問合せ 地域力推進室 企画担当 ☎432-1199

 神保 武蔵さん

活動の様子が「市民しんぶん 北区版」（第327号 2023年3月15日）で紹介されました。

2022年度 活動報告

取り組み2年目となる今回は、「自然への深い感謝の念や繊細なおもてなしの精神など日本人が大切に受け継いできた日本の心を次世代に継承していく」というプロジェクトのモットーに則り、1) 学生の視点から、北区の魅力を伝える。2) 「魅力」の紹介に留まらず、日本人特有の精神文化や価値観といった「WAのころ」とは何かを問題提起する作品をつくるという方針で映像制作を企画し、曹洞宗鷹峰山源光庵と敷地神社（わら天神宮）の2箇所を選びました。

源光庵では、「悟りの窓」や「迷いの窓」など、地元民が知る美しい風景から得られる視覚的魅力や歴史を映像を通して伝えること、ご住職に「源光庵と地元との繋がり」、「ご住職がどのような思いで地元の人々に寄り添ってきたか」を語っていただく、視覚ではあらわせない「禅のころ」、「鷹峰という土地への想い」といった「ころ」の部分も区民の方々に知ってもらうことで、北区民ならではのWAのころを感じてもらいたいという方針で映像制作に取り組みました。

敷地神社（わら天神宮）では、「ご社殿」や「お守り」など、地元民が知る美しい風景やお守りから得られる視覚的魅力や歴史を、映像を通して伝えることをめざし、神主様に「敷地神社と地元との繋がり」、「神主様がどのような思いで参拝者の人々に寄り添ってきたか」を語っていただきました。

制作した2本の映像は、下記「京都市公式YouTubeチャンネル「きょうと動画情報館」よりご覧いただけます。



YouTube動画【京都市公式】北区「WA（わ）のころ」 in 源光庵
(大谷大学社会学部松川ゼミ×北区「WAのころ」創生事業) より



YouTube動画【京都市公式】北区「WA（わ）のころ」 in わら天神宮
(大谷大学社会学部松川ゼミ×北区「WAのころ」創生事業) より

担当教員



松川 節

社会学部コミュニティデザイン学科

受験生の 在學生・留学生 保護者の 企業・一般 卒業生の 教職員
方 方 方 方 方 へ

大谷大学について
学部・大学院
キャンパスライフ
就職・キャリア
学術研究
入試情報

学習支援
学生生活サポート
地域連携
生涯学習講座
高大連携
図書館
博物館
校友活動
クラブ活動

新着一覧
教育情報の公表
内部質保証
教員免許状更新講習
外国人留学生関連情報
事務局案内
人権教育・人権問題
公正な研究活動推進についての取り組み
各種証明書の申込窓口

大谷大学
〒603-8143 京都市北区小山上総町
TEL：075-432-3131 (代表)

交通アクセス

資料請求

- > サイトポリシー
- > SNSによる情報発信
- > ウェブサイトにおける情報収集
- > プライバシーポリシー
- > 学校法人 真宗大谷学園
- > 大谷中・高等学校
- > 採用情報
- > リンク集
- > 教職員へ



紫竹自治会応援プロジェクト

プロジェクト概要

地域住民にとって身近な組織である自治会の取り組みについての現状と課題を、実際の自治会活動の行う取り組みに参加することを通じて学ぶことを目的としたプロジェクトです。

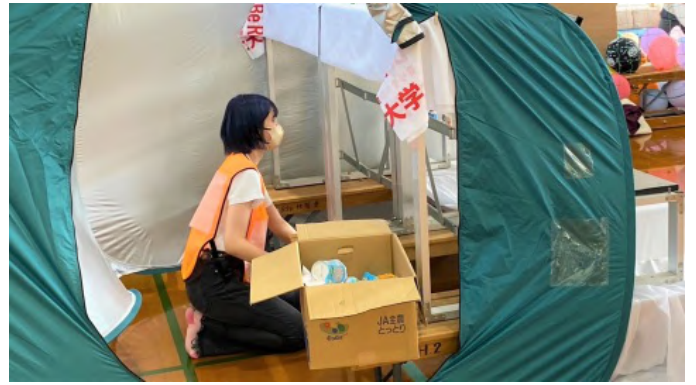
近年自治会・町内会については加入・未加入をめぐる様々な状況、考え方や判断があること、あるいは活動の内容についても形骸化、行政の下請け化が進むなどの指摘があります。一方で、地域での身近な横のつながりを担うことができる、加えて、平時はもとより災害などの場合に相互の助け合いの機能を発揮できるなどの期待もされています。このプロジェクトでは京都市北区紫竹学区をフィールドに、紫竹学区自治連合会と連携し、自治連合会が実施する活動に参加することを通じて、地域における自治会組織の役割や機能、加入・未加入などのジレンマの現状などを把握し、そこから地域の住民同士の関係性と集団組織の方向性などを探っていきます。

2022年度 活動報告

2016年度、当該学区において京都市北区の進める「まちづくり学区ビジョン」作成のプロジェクトに取り組みました。また2020年度には学区自治連合会で取り組まれた町内会長向けアンケートの分析や分析結果に基づくワークショップなどを実施しました。このような地域とのつながりを踏まえ、本年度からは紫竹学区の自治会活動を応援するプロジェクトとしてスタートすることとしました。昨年度は、コロナウイルスの感染拡大に伴う相次ぐ行事の中止により、12月と2月のイベント参加とそこでのアンケートブースの運営参加のみとなりました。

本年度は、紫竹まつりや紫竹ルネサンスなど学区のイベントへ参加し、イベント準備を行うとともに、大谷大学学生ブースを設け、子どもたちなど地域の方々との交流を行いました。また、地域の方が気軽にふらっと立ち寄れるサロン活動「カフェふらっと紫竹」にも継続的に参加し、交流を深めました。





学生の声

社会学部コミュニティデザイン学科 第3学年 Y. M

紫竹の活動に積極的に参加できたので地域の人たちと関わることができてよかったです。イベントブースでは、売上をあげるためにみんなで協力してきびきびと回していくことを続けていくべきだと思いました。また、輪投げより射的の方が人気だった印象があるので子供達がやってみたいと思う企画を念入りに考えられたら良いと思いました。

社会学部コミュニティデザイン学科 第3学年 H. K

年間を通して、紫竹学区で活動しました。後輩とも関わりながら取り組めたのでとても充実した一年だったと感じました。今後も楽しそうだと感じたものには挑戦していきたいと考えています。

担当教員



志藤 修史

社会学部コミュニティデザイン学科

北区こどものまち

プロジェクト概要

北区役所が事務局となり実施する「ニコニコ北っ子 北区こどものまち」は、子どもたちスタッフとなり自身が街の仕組みや、街にあってほしい店などを自由に発想し、仮想のまちづくりを進め、一般応募したこどもを来場者として迎えるイベントである。本学ではこれまで、教育心理学科、教育学部初等教育コースの学生を中心とした有志学生が、子どもスタッフのサポートならびに当日の運営の手伝いを担い、コミュニティデザイン学科の学生が、正課授業の一部として大人や地域向けの情報発信の役割を担ってきた。これらを通じ、子どもの地域での健全な育成やまちづくりの支援し、取り巻く大人の関わりとサポートのあり方などを学び実践する機会としている。なお、この取り組みは北区と本学との協定に基づく事業として位置付けている。



2022年度 活動報告

2021年度、オンライン実施したワークショップに参加した子どもや学生から募ったアイデアをもとに、北区未来につながる区民会議（事務局：北区役所）が「北区こどものまちボードゲーム」を開発しました。子どもから大人まで、遊びながらまちの賑わいづくりを体験できるオリジナルボードゲームです。本年度は、学区のおまつりなどでボードゲームの体験する機会を設け、子どもや親子など当日の来場者を対象に体験会を計画していました。本学学生は、体験会でのファシリテート役として、事前に練習を行い当日に臨みました。



担当教員



赤澤 清孝

社会学部コミュニティデザイン学科

祇園祭ごみゼロ大作戦

プロジェクト概要

世界有数の伝統祭事である祇園祭。祭の山場となる山鉾巡行前の宵山行事期間中は、多くの夜店・屋台が四条烏丸を中心に広範囲で立ち並び、国内外から多くの来場者が訪れます。しかし、来場者数に比例して課題となるのが、紙やプラスチック容器などの廃棄物でした。以前に比べ散乱ごみなどは減ったものの、可燃ごみの量は増える一方でした。そこで2014年、NPO、行政、夜店や屋台、ごみ収集事業者などの協力のもと、使い捨て食器を、繰り返し洗って使用可能なリユース食器に切り替える「祇園祭ごみゼロ大作戦」を実施しています。大谷大学では2015年よりこの活動に協賛し、また、全学を挙げて参加しています。学生の参加は、正課授業を受講し、その一環として参加、ボランティアとしての参加の2つの形態があります。授業では、祇園祭の歴史、ごみ問題、環境問題に関わる市民活動の実例など、多様な視点から「祇園祭ごみゼロ大作戦」の背景やこれまでの成果について学び、その上で宵々山・宵山当日の活動に参加し、リユース食器の回収やごみの分別を促しました。活動後は、その経験をレポートにまとめ、主催団体に活動の課題や改善点をフィードバックしました。



学生の声

社会学部現代社会学科 第2学年 M. H

お客さんたちがごみの分別に協力的で、「ありがとう」や「がんばって」という言葉もかけていただき、やりがいがありました。またリーダーとして、ボランティアさんたちに気持ちよく活動してもらえるよう心がけました。大変だったけれど、自身の成長にもつながりました。

社会学部コミュニティデザイン学科 第3学年 R. T

今回初めて祇園祭の活動に参加しました。活動の中で、露店でリユース食器を導入して洗って繰り返し使うことで、ごみを大幅に削減する効果がありました。多くの人の協力で京都という街が美しく保たれていることを実感しました。ボランティアとして協力できたことを誇りに思います。

2022年度 活動報告

昨年、一昨年は、新型コロナウイルス感染症で活動を縮小し、まちなかのクリーンアップ活動のみでしたが、今年は山鉾巡行、宵山も3年ぶりの開催となり、祇園祭ごみゼロ大作戦も本格実施となりました。大谷大学からは人間学IIの受講者、ボランティアの合計150人が参加。うち15人はボランティア活動をまとめ役となるリーダーを務めました。山鉾町内に設けたエコステーションで、リユース食器の回収や、ごみの分別作業に取り組みました。当日は、学年・学科の異なる学生のほか、他大学の学生や社会人、高校生などと一緒に活動に参加。袖口に大谷大学の名称とロゴがプリントされたボランティアTシャツを着用し、チームワークよく活動できました。ボランティアの数が少ない17時~24時を中心に参加し、当日の運営に大きな貢献ができました。こうした体験を経て、学生たちは、京都の歴史や伝統文化を身近に感じるとともに、様々な立場の人たちがひとつの目的に向けて協力し、実行することの意義を実感しています。



担当教員



赤澤 清孝

社会学部コミュニティデザイン学科

関連記事

- ＞ 2022.08.04 「祇園祭ごみゼロ大作戦2022」の実施報告
- ＞ 2022.07.07 「祇園祭ごみゼロ大作戦2022」に全面協力ー本学学生約150名が参加

HOME ＞ 地域連携 ＞ 祇園祭ごみゼロ大作戦

[Page top](#)

受験生の 在学学生・留学生 保護者の 企業・一般 卒業生の 教職員
方 の方 方 の方 方 へ

大谷大学について

学部・大学院

キャンパスライフ

就職・キャリア

学習支援

学生生活サポート

地域連携

生涯学習講座

高大連携

図書館

新着一覧

教育情報の公表

内部質保証

教員免許状更新講習

外国人留学生関連情報

大谷大学

〒603-8143 京都市北区小山上総町

TEL : 075-432-3131 (代表)

[交通アクセス](#)

[資料請求](#)

＞ [サイトポリシー](#)

＞ [SNSによる情報発信](#)

＞ [ウェブサイトにおける情報収集](#)

＞ [プライバシーポリシー](#)

学術研究

入試情報

博物館

校友活動

クラブ活動

事務局案内

人権教育・人権問題

公正な研究活動推進についての取り組み

各種証明書の申込窓口

＞ 学校法人 真宗大谷学園

＞ 大谷中・高等学校

＞ 採用情報

＞ リンク集

＞ 教職員へ



Copyright © 2009 Otani Univ. All Rights Reserved.

京都府北部福祉フィールドワーク

プロジェクト概要

本プロジェクトは、京都府北部地域で多様な地域実践を展開している自治体において、地域を基盤としたソーシャルワークの実際を学ぶことを目的としたフィールドワークです。

2020年度以降は新型コロナウイルス感染再拡大を受け、受け入れ先の状況を考慮しながら実施しています。



2022年度 活動報告

本年度は、夏の実施は一旦延期となりましたが、2月に日帰りの形で実施することができました。京都府北部の福祉施設や行政の福祉担当部署を訪問し交流を行うとともに、北部の福祉の現状を学びました。地域や施設の特性に根ざした実践の豊かさを学ぶ機会となっています。本フィールドワークをきっかけに北部地域で就職することを決意した学生もあり、学生の学びに大きな影響を与えています。



担当教員



中野 加奈子

社会学部コミュニティデザイン学科

子ども子育て支援プロジェクト

プロジェクト概要

子育て世帯がたくさん暮らす住宅街という側面を持つ北区。京都市及び北区は子育て政策として、子育て中の保護者の不安や疑問を解消し、地域で孤立しないよう、地域の人たちとの仲間づくりや交流活動を推進しています。大谷大学教育学部教育学科幼児教育コースではこれらを将来保育士や幼稚園教諭など、保育者を目指している学生たちの実践的な学びの機会—とくに近年保育者として必要とされている子育て支援・保護者支援の実践力を身につける学びの機会として捉え、またそれが同時に地域貢献を実現する試みとしてプロジェクトに取り組んでいます。2020年度より新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けつつも2021年度と同様の事業を展開しました（下記「2022年度活動報告」参照）。なお、本年度も園児が本学に来校する取り組みは実施できませんでした。



2022年度活動報告

京都市の子育て支援事業である「いないいないばぁ教室」を京都市子育て支援事業の北区の拠点園である京都市楽只（らくし）保育所と共同で半期6回実施しました。制限の中での実施ということから、楽只保育所での開催となりました。また学生の参加も人数を制限し、京都市からの要請により各回3名までです。また例年活動している、北区の「地域子育て支援ステーション」である紫明幼稚園・のぞみ保育園と連携し子育て相談や子育て講座・園庭開放等に取り組む「あかちゃんにこちゃんサロン」については、2020年度より実施を見合わせています。

学生の声

教育学部教育学科幼児教育コース 第2学年 I. H

私は楽只保育所の子育て支援に参加して、月齢によって発達の違いが大きいことや個人差があることがわかりました。そこで、親子の集まれる機会を作ることで悩みや不安を打ち明けることができ、子どもの成長の見通しが持てると感じました。

教育学部教育学科幼児教育コース 第2学年 C. T

私は今回の子育て支援の取り組みを通して、改めて保護者に寄り添ったサポートであると感じました。子育てのお母さんが沢山集まり、日頃の悩みや不安を相談し合うことができるため、孤立を防ぐことにつながると感じました。

担当教員（代表）



富岡 量秀

教育学部教育学科幼児教育コース

2022年度地域連携プロジェクト交流会 実施報告

地域連携プロジェクトに参加する学生の交流と活動報告の場として、毎年「地域連携プロジェクト交流会」を実施しています。様々なプロジェクトで活動する学生同士が、日ごろの活動の苦労や楽しさを分かち合うだけでなく、活動の意義や今後の課題解決のヒントなど学生同士の学びあいを通して、自分たちの学びを深める場となりました。本年度から初めての試みとして、ギャラリースペースにて実施した。(昨年度までは教室)

内容 第1部 プロジェクト活動報告

第2部 グループディスカッション

日時 2022年11月30日(水) 15:30 ~ 17:30

場所 響流館ギャラリー

参加者 16名

参加プロジェクト 10プロジェクト

- ・南丹市美山平屋地区と大谷大学学生との交流活動
- ・子ども子育て支援
- ・網野町海浜漂着プラスチックの調査清掃活動
- ・駅ナカアートプロジェクト
- ・山間地域の持続可能な地域づくり支援プロジェクト
- ・祇園祭ごみゼロ大作戦
- ・WAのこころ創生プロジェクト
- ・中川の暮らし再発見プロジェクト
- ・聞き取りを通じた共生社会推進プロジェクト
- ・コミュニティメディア



2022年度第1回コミュ・ラボ カフェ 実施報告

地域連携室では「コミュ・ラボ」を設置し、学生の地域連携活動の支援を行っています。「グランドビジョン 130」において示された「学生の主体的な学びの探求を支援」し、将来的な「学生・卒業生・地域の人たちが交流する『たまり場』機能の整備」をめざし、本年度からコミュ・ラボ カフェを試行的に実施しています。学内での地域連携分野でのコミュニティカフェとして、学生同士の学びあいや交流を通じて、学生の地域活動に対する関心を高める取り組みです。

第1回目となる今回は、京都の過疎地域で空き家改修イベントの開催やシェアアトリエの運営、農業支援（援農）などの仕掛人をゲストに招き、地域でのコト起こしについてお話いただいた。後半の質疑応答では、地域活動に興味関心を持つ学生や実際に活動している学生からの悩み相談に応じていただくなど、学生の日ごろの活動を後押しする企画となりました。

1. タイトル コミュ・ラボ「たまり場」カフェ
2. ゲスト 伊藤洋志氏
同日5限「生活問題論」（担当；齋藤雅哉助教）の外部講師として登壇
地域でのコト起こしなど、授業とは異なる視点から話題提供いただく
3. 日時 2022年7月6日（水）
12:30～13:00 ゲストから日々の活動の紹介
13:00～13:30 座談会（参加者から悩みや相談をもとにした質疑応答）
（終了後、参加した学生数名からの質問等に応じていただいた 20分程度）
4. 場所 響流館1階コミュ・ラボスペース（ギャラリー内）
5. 参加者 15名（社会学部6名の他、文学部、教育学部など）
- 6.



2022年度第2回コミュ・ラボカフェ 実施報告

地域連携室では「コミュ・ラボ」を設置し、様々な取り組みを通じて学生の地域連携活動の支援を行っています。「グランドビジョン130」において示された「学生の主体的な学びの探求を支援」し、将来的な「学生・卒業生・地域の人たちが交流する『たまり場』機能の整備」をめざし、本年度からコミュ・ラボカフェを試行的に実施しています。学内での地域連携分野でのコミュニティカフェとして、参加者やゲストが交流を通じて、学び合いやつながりづくりの場となり、学生の地域活動に対する関心を高める取り組みです。

本年度第2回目として、地域連携プロジェクトで活動した卒業生をゲストに迎え、地域を支える仕事に従事するゲストの仕事と地域の関わりや、学域連携の意義についてご教示いただきました。当日参加した学生は、学生時代の現場経験の大切さなどに触れ、日頃のプロジェクト活動のヒントを得たり、学生が自主的に参加する地域連携活動を考える上で参考となる場となりました。

1. テーマ 地域を仕事にする卒業生から学ぶ学生時代の地域連携活動
2. 日時 2023年1月12日(木)16:20-17:00(5時限目)
3. 場所 慶聞館 K302 (同ゲストが外部講師を勤める授業後に実施したため)
4. ゲスト 緒方秋穂さん(グループホームはつね、2018年度卒業生)
藤木ちひろさん(いこいの村聴覚言語障害センター、2021年度卒業生)
※両氏は在学時に地域政策を専攻、美山プロジェクトなど地域連携活動に携わった
5. 参加者 学生6名
6. 内容 座談会形式



大谷大学×地域×社会福祉法人 菊鉾会が連携し農福学のまちおこしを实践
中川学区の暮らし再発見—お茶によるビールプロジェクト
『京都・中川まんまビア!』 8月下旬より発売開始
京都市の支援事業“学まちコラボ事業”に認定!

大谷大学(所在:京都市北区 学長:一楽 真)では、京都市北区中川学区の抱えている課題や地域の今後を考えることを目的とした「中川学区の暮らし再発見—お茶によるビールプロジェクト」を実施しています。この度、京都市が主催する「学まちコラボ事業(大学地域連携創造・支援事業、以下学まちコラボ事業)」に、2年連続で認定されたことをお知らせします。

このプロジェクトでは、住民と協働した活動のひとつとして本学の卒業生が中心となり活動している社会福祉法人菊鉾会の醸造部門であるヒーローズ(旧 NPO法人HEROES、以下ヒーローズ)と本学の学生が連携し、お茶によるビールづくりに取り組んでいます。本活動では、ヒーローズのビールブランドである「西陣麦酒」において、京都・中川で親しまれてきた日本古来の茶葉を原料に使用したクラフトビール『京都・中川まんまビア!』を共同開発。収益の一部は中川の活性化に活かされます。

今年で7年目を迎える中川学区での活動は、今年も「学まちコラボ事業」の支援を受け、『京都・中川まんまビア!』の製造や販売だけでなく、中川地域の活性化や魅力の発信など学生が主体となった活動により一層力を入れていきます。『京都・中川まんまビア!』は京都市の酒店4店舗にて、2022年8月下旬より販売開始します。



『京都・中川まんまビア!』公式サイト
<https://nishijin-beer.com/beers/manmabeer>

■京都市の地域活性化支援事業「学まちコラボ事業」に認定!

京都市と(公財)大学コンソーシアム京都市は、大学・学生と地域が「コラボ」して京都のまちづくりや地域の活性化に取り組む企画・事業に支援金を交付し、学生主体の地域活動を支援する「学まちコラボ事業」を実施しています。

本学では、地域の方や本学の卒業生が中心となり活動しているヒーローズが取り組むビールブランド「西陣麦酒」と協働し、京都・中川で親しまれてきた日本古来のお茶を使ったクラフトビール『京都・中川まんまビア!』を開発。現在、製造と販売活動も行っています。この「中川学区の暮らし再発見—お茶によるビールプロジェクト」が、学まちコラボの支援事業として2022年7月12日(火)に認定されました。申請書の提出からプレゼンテーションの発表まで全て学生が行い、学生ならではの視点や発想で時代の流れに即した新たな地域連携の形を生み出しています。



中川学区の暮らし再発見ーお茶によるビールプロジェクトについて

■実施背景

京都市北区中川学区は京都市北部の山間地域に位置し、古くから「北山杉」として有名な林業で栄えてきた地域です。住宅様式の変化に伴い、地域産業の中心だった林業は衰退、若者の流出により地域の少子高齢化が進んでいます。京都市内ながら交通不便地域にある中川学区では、車を持たない高齢者などは、集落外への外出が困難な状況となっています。一見、暮らしにくい地域に見えますが、そこには地域の人たちが紡いできたかけがえない風土や生活文化、地域行事などへの思いなど、これまで大切に守り伝えてきた歴史や暮らしがあります。本学では、地域に残る伝統や文化の積極的な発信、地域の資源を活用した新たな生活文化を創造するきっかけづくりにも取り組みたいと考え、『中川学区の暮らし再発見』に取り組んでいます。

■『京都・中川まんまビア!』とは

『京都・中川まんまビア!』は、京都市北区中川学区で栽培されている日本古来のお茶を使った「まんま茶」を原料に使用したクラフトビールです。本学の社会学部コミュニティデザイン学科 志藤 修史教授のゼミ学生が中川学区の住民の方々とともに茶葉を収穫し、ヒーローズが製造を担う、中川学区の住民・ヒーローズ・大谷大学による農福学連携の開発商品です。ヒーローズは、本学の卒業生松尾 浩久さんが中心となってビールブランド「西陣麦酒」を展開。「自閉症の方とともに」を就労支援のコンセプトに製造を行っています。ヒーローズの厚意により、販売益の一部は学生の中川での活動費用に還元されます。『京都・中川まんまビア!』が売れるごとに、学生の中川での活動が充実し、中川学区の活性化に寄与する仕組みとなっています。今年度醸造分は夏と秋以降の2回、各限定400本の販売を予定しており、第1回目は8月下旬に販売します。京都市内の数か所の販売店で購入できるほか、「西陣麦酒」のホームページからも購入できます。

<西陣麦酒公式ホームページ: <https://nishijin-beer.com/>>

■『まんま茶』とは

中川に自生するお茶の木の一部は、日本最古の茶園がある高山寺（京都市右京区高雄）のお茶の木とほぼ同一种であることが分かり、地元の方が「あるがまま」、「自然のまま」の茶葉という意味から「まんま茶」と名付けました。中川では、昔は家のお茶の木から作ったお茶を農作業などの合間に飲んでいただけだと知られているものの、中川でのお茶摘みは、住民にも忘れさられていた過去の風景となっています。高山寺に近く、歴史的に関わりの深い中川学区での“まんま茶”の発見は、地域とお寺の繋がりをさらに深める証と考え、中川の暮らしに根差した“まんま茶”を復活させるため、キャンパス内でもお茶を栽培するなど、学内でも中川の歴史や伝統を学べる機会を作っています。



■2022年プロジェクト実施内容

2022年度は24名の学生が本プロジェクトに参加、5月に中川にて今年初めてのお茶摘みを行いました。収穫した茶葉は、学生が<蒸す→揉む→乾燥→焙煎>という工程を担います。コロナ対策として、少人数でも効率良く作業ができるよう作業を工夫し、今年度からは<蒸す>と<煎る>作業を同時に行い、作業時間の短縮を実現しました。完成後は、学生が販売促進や情報発信にも取り組みます。

また、毎月第二水曜日は中川社会福祉協議会「健康ふれあいクラブ」に学生が参加し、学生が企画したクイズ大会を行うなど中川学区のお年寄りとの交流を通じ、地域の学びを深めています。



中川学区の暮らし再発見ーお茶によるビールプロジェクト 学生代表 徳山 佳哉さん コメント



大谷大学 社会学部コミュニティデザイン学科 第3学年 徳山 佳哉 (とくやま よしや) さん

私が本プロジェクトに参加したきっかけは、「学生×お茶×ビール」という組み合わせがインパクトのある取り組みだと感じ、社会学部コミュニティデザイン学科志藤 修史教授のゼミを選択したことです。『京都・中川まんまビア!』は地道な作業の積み重ねできていることを学びました。

現在は学生代表として、各活動のプレゼンテーションや資料作成、パンフレット作成や連絡係など、全体の流れを見ながらプロジェクトメンバーをまとめています。様々な役割がある中、一人ひとりの作業内容を把握することが難しい一方、リーダーとして全ての作業工程に携われるため、幅広い経験ができることにやりがいを感じています。

ビールが完成したら、中川を離れた若い方々にも飲んでいただき、地域の魅力を再発見するきっかけになってほしいと思っています。将来的には、大学で学んだことを活かし、地元を盛り上げる存在になりたいです。今後も地域の方々に喜んでいただけるよう、頑張ります!

『京都・中川まんまビア!』商品概要

■商品概要

商品名	: 京都・中川まんまビア!
スタイル	: ゴールデンエール
モルト	: Pilsner, Viena, Carapils
ホップ	: CZ SAAZ
副原料	: 茶葉 (京都・中川産)
ABV (アルコール度数)	: 5%
IBU+ (苦味+a)	: 20 / ★★☆☆☆1



■取り扱い店舗

- ・京都第一酒造 (有) 〒602-8434 京都府京都市上京区西船橋町338
- ・京のSAKESORA 〒604-8118 京都府京都市中京区堺町通三条下る道祐町135-1 三条食彩ろおじ堺町の道
- ・酒房CRAFT MAN 〒604-0821 京都府京都市中京区観音町71
- ・山岡酒店 〒602-8475 京都府京都市上京区千本今出川上る西側牡丹鉾町555

公式サイト: <https://nishijin-beer.com/beers/manmabeer>

大谷大学について

大谷大学は、1665 (寛文5) 年の江戸時代、京都・東六条に創設された東本願寺の学寮をその前身としています。その後、いくたびかの変遷を経て、1901 (明治34) 年、近代的な大学として東京・巣鴨の地に開学。1913 (大正2) 年、現在の地に移転開設しました。

親鸞の仏教精神に基づき、“人材”ではなく“人物”の育成を目標とする学び「人間学」を教育・研究の根幹とし、広く一般社会へ開かれた大学として発展を続けています。2021 (令和3) 年には、近代化120周年を迎えました。



画像素材ダウンロード 【URL】 <https://bit.ly/3BoRhAG> 【PASS】 otani

ー 本件に関するお問い合わせ ー

大谷大学『京都・中川まんまビア!』PR事務局 (株式会社マテリアル)
TEL : 03-5459-5490 / FAX : 03-5459-5491 / E-mail : bp1@materialpr.jp
担当 : 山下 (070-8792-1098) / 溝部 (070-7789-2816)

京都「祇園祭」が3年ぶりの本格開催決定！ 約50%の削減に成功した日本最大級の環境保全プロジェクト 『祇園祭ごみゼロ大作戦2022』に大学が全面協力 地域課題解決に向けて本学学生約150名が活動！

大谷大学（所在：京都市北区 学長：一楽 真）は、「一般社団法人 祇園祭ごみゼロ大作戦」が運営する京都の伝統祭事「祇園祭」の景観を保つために発足したプロジェクト『祇園祭ごみゼロ大作戦2022』の実施に全面的に協力しています。大学として唯一協賛を行うとともに、多数の学生が参加し取り組みを支えています。祇園祭の前祭宵山期間 2022年7月15日（金）・16日（土）では、約2,000名のボランティアスタッフが活動しうち本学学生は約150名参加します。3年ぶりの本格開催となる今年は、例年多くの人出が見込まれる週末での開催に加え、新型コロナウイルス水際対策の入国規制緩和によるインバウンドの増加や地域観光事業支援等による国内旅行需要増大を背景に多くの集客が見込まれており、より一層の活動協力を行っています。



■『祇園祭ごみゼロ大作戦2022』プロジェクトとは

本プロジェクトは、2014年より「NPO法人地域環境デザイン研究所 ecotone」・京都市・ごみ収集業者組合・露天商組合などの協働により活動がスタートしました。国内外から多くの観光客が訪れる祇園祭ですが、前祭宵山期間は多くの夜店・屋台が広範囲に立ち並び、周辺のコンビニ等での販売を含め食品や飲料等の容器包装が大量の廃棄物として発生、鉾町周辺には大量の散乱ごみが残されるなど、深刻な地域課題となっていました。

そこで毎年約2,000名のボランティアスタッフの協力を得て、ごみの分別の呼びかけ・リユース食器への切り替えの推進、回収拠点エコステーションの設置など日本最大級のごみの減量に取り組んでいます。

コロナ下で祇園祭が縮小開催となったことに伴い、本プロジェクトの活動も縮小化。3年ぶりの本格開催となる今年は、観光客の増加など多くの人出が予想される中、本学から約150名の学生がボランティアスタッフとして参加。学生が主体となり積極的に活動していきます。

画像素材ダウンロード 【URL】 <https://bit.ly/3ncCb9o> 【PASS】 otani

－ 本件に関するお問い合わせ －

大谷大学『祇園祭ごみゼロ大作戦2022』PR事務局（株式会社マテリアル）
TEL：03-5459-5490 / FAX：03-5459-5491 / E-mail：bp1@materialpr.jp
担当：溝部（070-7789-2816） / 片岡（070-3607-2299）

『祇園祭ごみゼロ大作戦2022』ボランティアリーダー 松山 夏央さん コメント



大谷大学 社会学部コミュニティデザイン学科 第4学年 松山 夏央 (まつやま なつお) さん

私が『祇園祭ごみゼロ大作戦2022』プロジェクトに参加したきっかけは、2年前にこの活動の説明を受けた際、スタッフの方から活動意義や、やりがいを聞いて感銘を受けたからです。将来、“地元彦根”の活性化に貢献できる経営者になる、という目標のためにも、まずはリーダーとしての経験を通じて課題解決に役立ちたいと考え、今回ボランティアリーダーに立候補しました。

活動中、祭に参加している人がごみを丁寧に渡してくれたり、応援の声をかけてくれたりなど、参加しているからこそ見えてくる人の温かさややりがいを感じることができます。プロジェクトの参加目的は人それぞれですが、大人数で1つの目的に向かってごみ問題について学べることができる、素晴らしい活動だと考えています。

今年の祇園祭は3年ぶりの本格開催となり海外からの観光客も増えると予想されています。日本最大級の環境保全プロジェクトの先駆けとして、もっと多くの人に『祇園祭ごみゼロ大作戦』の活動を広めていきたいです。

本学における『祇園祭ごみゼロ大作戦』

■参加の背景

本学では「地域連携室（コミュ・ラボ）」を設置し、伝統が息づく住民力と学生の協働で、過疎地域の活性化・子育て支援・コミュニティラジオでの情報発信といった地域連携活動に取り組んでいます。『祇園祭ごみゼロ大作戦』プロジェクトは、学生自らが問題を発見し、さらにその問題を自ら解決する能力を身につける学習方法問題解決型学習=PBL（Project Based Learning）を採り入れた文学部社会学部の演習科目で始まりました。現在では学生のまち「京都」において、多くの学生が“積極的に社会参加するきっかけとなるボランティア活動”として、全学の学生が参加するプロジェクトへと発展しています。

■授業との関わり

本学では、「人間学」という正課授業を開講。『祇園祭ごみゼロ大作戦』に参加する授業も設置しています。「人間学」は、仏教の教えに基礎を置き、「人間」を見つめ、考えることをテーマとした授業で、開学時から受け継がれている本学独自の理念に基づいて設置されています。当該授業は、本学がプロジェクトに参加するきっかけとなった社会学部コミュニティデザイン学科 赤澤 清孝 准教授が担当し、祇園祭の歴史・ごみ問題・環境問題に関わる国内外の市民活動の実例など、多様な視点から『祇園祭ごみゼロ大作戦』の背景やこれまでの成果について学ぶ科目です。授業では、『祇園祭ごみゼロ大作戦』に参加し、活動の感想や改善案をレポートにまとめて発表するなど、学生が主体的に環境活動や地域保全活動について取り組むカリキュラムを行っています。

■参加学生の声

当日の活動は、受講生以外の学生もボランティアとして参加できます。2015年のプロジェクト参加から8年目となる現在、学生の間で口コミなどで活動が認知され、学部学科問わず応募者が集まっています。ごみのポイ捨てを防ぎ、リサイクルのために分別の徹底を呼び掛けるごみ回収拠点での活動や、リユース食器の導入により、廃棄ごみそのものの発生を削減する（リデュース）という発展的な取り組みを行ってきました。コロナ下でボランティア活動の募集も減っているため、今年度は例年以上に学生の参加意欲が高く、参加した本学学生の環境問題に対する関心度も高まっている様子です。「環境問題の解決に貢献できて良かった」「他のボランティア活動に参加するきっかけになった」など、前向きな声が届いています。



『祇園祭ごみゼロ大作戦』過去実績

露店等の出店がある祇園祭前祭宵山期間のごみの発生量は約54トン（プロジェクト開始以前:2013年時点）にものぼります。そこで、繰り返し何度も洗って使用できる「リユース食器」を露店に導入してもらえるよう働きかけるなど、ごみの減量と散乱ごみの防止に繋げる『祇園祭ごみゼロ大作戦』を2014年からスタート。プロジェクト開始わずか1年目でごみの量を約34トンにまで減少させることができました。特に3年ぶりの祇園祭本格開催となる今年は、外国人観光客受け入れ再開によるインバウンド需要を含めた観光客も増加し、宵山でのごみも増えることが予測されます。ごみをゼロに近づける本プロジェクトをさらに発展させていくため、今後も積極的に活動を行ってまいります。

▼ごみの発生量

(前祭のみの実績)

西暦	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	
取組年数	取組開始前	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	
資源物	1,550	8,130	3,140	4,660	3,490	3,750	3,200	kg
もやすごみ	55,780	34,430	25,340	47,420	49,450	33,990	29,080	kg
全体の廃棄物量	57,330	42,560	28,480	52,080	52,940	37,740	32,280	kg
来場者数	500,000	620,000	335,000	550,000	510,000	418,000	330,000	人
1人あたりのごみ量	114.7	68.6	85.0	94.7	103.8	90.3	97.8	g
1人あたりのもやすごみ量	111.6	55.5	75.6	86.2	97.0	81.3	88.1	g
資源化率(対2013年比)		5.2	2.0	3.0	2.3	2.4	2.1	倍
不燃ごみ				9,340	6,740	7,760	6,710	kg
段ボール				2,100	3,040			kg

『祇園祭ごみゼロ大作戦2022』実施概要

- 目的 : 祇園祭宵山期間（前祭）におけるリユース食器を活用したごみゼロ活動
- 実施日 : 2022年7月15日（金）・16日（土）
- 会場 : 鉾町一帯
- 来場者数 : 約33万人（2019年度実績）
- ボランティア : 約2,000名
- 実施内容 : 1.祇園祭のリユース食器オペレーションの実施/2.祇園祭飲食出展者へのリユース食器貸し出し/3.資源の分別活動/4.散乱ごみの清掃活動
- 主催 : 一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦
- 公式サイト : <https://www.gion-gomizero.jp/>
- 運営協力団体 : 美しい祇園祭をつくる会/きょうとNPOセンター/京都環境事業協同組合/京都市/五条露店商組合/ NPO法人地域環境デザイン研究所 ecotone/京のアジェンダ21フォーラム



大谷大学について

大谷大学は、1665（寛文5）年の江戸時代、京都・東六条に創設された東本願寺の学寮をその前身としています。その後、いくたびかの変遷を経て、1901（明治34）年、近代的な大学として東京・巣鴨の地に開学。1913（大正2）年、現在の地に移転開設しました。

親鸞の仏教精神に基づき、“人材”ではなく“人物”の育成を目標とする学び「人間学」を教育・研究の根幹とし、広く一般社会へ開かれた大学として発展を続けています。2021（令和3）年には、近代化120周年を迎えました。



画像素材ダウンロード 【URL】 <https://bit.ly/3ncCb9o> 【PASS】 otani

－ 本件に関するお問い合わせ －

大谷大学『祇園祭ごみゼロ大作戦2022』PR事務局（株式会社マテリアル）
TEL : 03-5459-5490 / FAX : 03-5459-5491 / E-mail : bp1@materialpr.jp
担当 : 溝部 (070-7789-2816) / 片岡 (070-3607-2299)

